

<b>Title</b>	クレイグ・モド著, 樋口武志, 大原ケイ訳 : 『ぼくらの時代の本』
<b>Author</b>	北, 克一
<b>Citation</b>	情報学. 12 卷 1 号, p.89.
<b>Issue Date</b>	2015
<b>ISSN</b>	1349-4511
<b>Type</b>	Article
<b>Textversion</b>	Publisher
<b>Publisher</b>	大阪市立大学創造都市研究科情報学専攻
<b>Description</b>	新刊紹介
<b>DOI</b>	

Placed on: Osaka City University

## 新刊紹介

北 克一

### クレイグ・モド著、樋口武志、大原ケイ訳 『ぼくらの時代の本』

ポイジャー, 2014.12.

16, 217p 19cm 定価 2,000 円(税別)

ISBN:978-4-86239-167-4

本書は著者、クレイグ・モドのサイト (<http://craigmod.com>)に、2010年から2012年にかけて掲載されたエッセイを翻訳出版した書である。

素晴らしいイラストはルイス・メンドウ、題字は國廣沙織である。

本書の前扉をめくると、10ページのイラストデザインが始まる。じっと見つめていると、これらが著者のクレイグ・モドからのメッセージであることに気づく。順に確認しておこう。1枚目;石、2枚目;木、3枚目;牛(皮)、4枚目;蚕(絹)、5枚目;やし、6枚目;蜜蝋、7枚目;紙の本、8枚目;文字「ぼくらの」、9枚目;タブレット端末、10枚目;文字「時代の本」。

これらは大昔から現在に至るまで、「本」を取り巻いてきた”モノ”たちである。なお、これらの”モノ”たちの出典が巻末に示されている。URLをたどるだけでも、本を巡る楽しいミニ巡礼ができる。

前書きでクレイグ・モドは、次のように話す。「ぼくらの時代の本とは何だろう」、「ぼくらの時代の本とは形のある本だ。…ぼくらの時代の本とは形のない本だ。…ぼくらの時代の本とはその両方を行き来する本だ。…この本は、4年間における本のあり方、読書のあり方、出版のあり方の進化を見てきたぼくのエッセイを集めた本だ。どうか、ぼくらの時代の本について、一緒に考えてください。2014年10月」

そして本書の締めくくりは、著者クレイグの私的な「本をめぐる祭壇」のイラストである。順に、蔡倫、アルドゥス・マスティウス、富田倫生、ステイブ・ジョブス、ヨハネス・グーテンベルク、マーシャル・マクルーハン、ジェフ・ペゾス、オブラ・ウィンフリー、マーガレット・C・アンダーソン、岩波茂雄、ベンジャミン・フランクリン、ジュディス・ジョーンズ、ゲスト;ブンコ・ニャンコ(文ニャン)。選定説明はなく、ただこれらの人々の事績を思うだけで楽しくなる。いい本である。

なお、日本語版の公式 HP が次にある。

<http://bokuranohon.com/>

本書は7章で構成されている。原エッセイの原題と初出時期と共に、章立てを次に示す。

第1章 「iPad時代の本」を考える：本作りの二つのゆくえ

Books in the age of the iPad(2010.3)

第2章 表紙をハックせよ：すべては表紙でできている

Hack the Cover(2012.5)

第3章 テキストに愛を：こんなEリーダーが大事

Embracing the Digital Book(2010.4)

第4章 「超小型」出版：シンプルなツールとシステムを電子出版に

Subcompact Publishing(2012.11)

第5章 キックスタートアップ：kickstarter.comでの資金調達成功事例

Kickstartup(2010.8)

第6章 本をプラットフォームに：電子版『Art Space Tokyo』制作記

Platforming Boks(2012.8)

第7章 形のないもの ↔ 形のあるもの：デジタル世界に輪郭を与えることについて

The Digital ↔ Physical(2012.3)

エッセイ集という本書の性格から、章単位での紹介は控えるが、第7章の原題「The Digital ↔ Physical」については言及をしておきたい。一般にデジタルの対語は、アナログと解されている。すなわち情報の記録方式として2進数のデジタル vs. 波のアナログという理解である。しかし、『ぼくらの時代の本』では、「Digital」の対語は、「Physical」である。邦訳では、「形のないもの ↔ 形のあるもの」と訳語をあてている。秀抜な訳語に感じるのは評者だけであろうか。

本書の随所に表れるイラストも楽しい。評者はしばし、『ホール・アース・カタログ』や『Wired』の時代にタイムスリップをした。

本を巡る3部作として、次の書と共にお勧めをしたい。ヒュー・マクガイア&ブライアン・オレアリ編『マニフェスト 本の未来』ポイジャー, 2013,2. オライリー・メディア編『ツール・オブ・チェンジ：本の未来をつくる12の戦略』ポイジャー, 2013,11.

(きた かついち 相愛大学共通教育センター)